

コーポレートガバナンス

理想科学は健全な企業運営を行うために「コーポレートガバナンス」が重要事項であると認識しています。

●コーポレートガバナンス

企業統治と訳されます。

一般的には、健全かつ効率的な事業活動を維持していくことを目的とした経営システムのあり方といわれています。

コーポレートガバナンスの体制

理想科学は、監査役設置会社のガバナンス形態を採用しています。

経営上の意思決定は、毎月1回の定時取締役会および必要に応じて随時開催する臨時取締役会において審議を行い決定しています。

また、業務執行については稟議手続規程の決裁基準に基づき稟申され、毎月2回開催する経営会議において審議を行い意思決定しているほか、決裁基準に応じて代表取締役、業務担当役員または部門長がそれぞれ判断し決裁しています。

監査役会は、常勤監査役2名、非常勤社外監査役2名（公認会計士2名）で構成されており、公正・客観的な立場から監査を行っております。原則として監査役全員が取締役会に出席するとともに、常勤監査役は経営会議をはじめとした社内の各重要会議に出席し、取締役の業務執行状況を十分に監査できる体制となっています。また、当社は内部監査部門として監

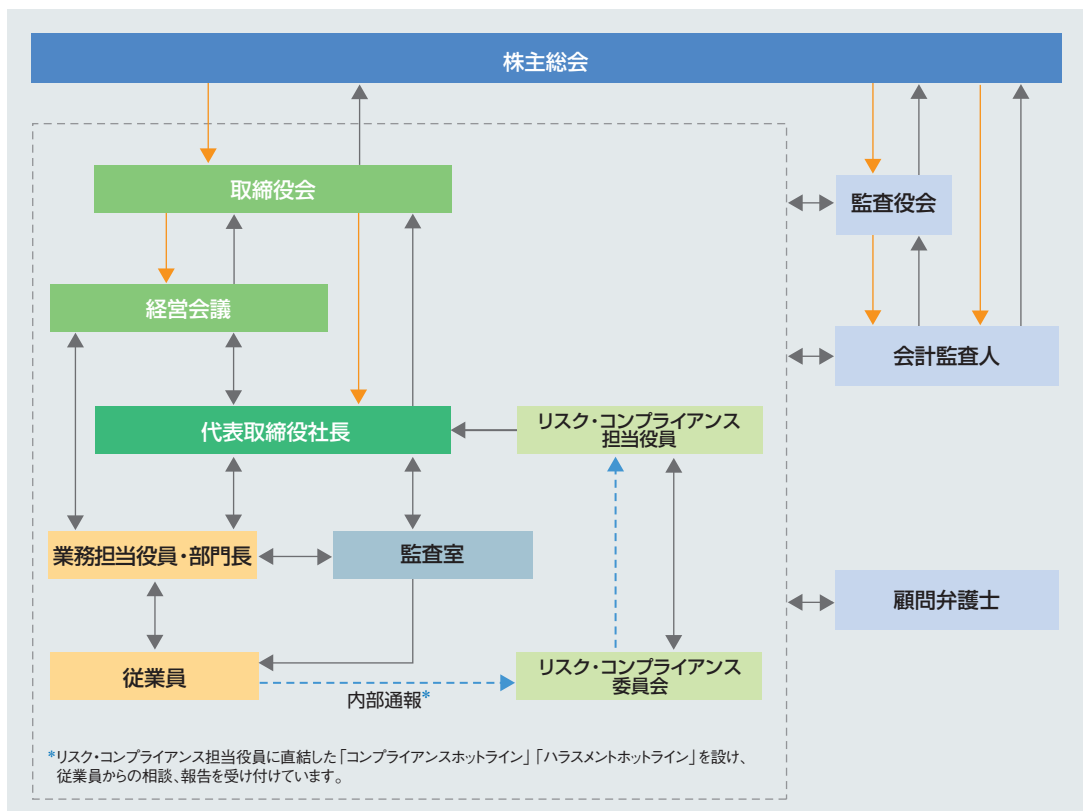
査室を設置しており、内部監査規程に基づき、工場、営業拠点および子会社等の会計監査および業務監査を実施しています。 [Web](#)

財務報告適正化への取り組み

2006年9月より、会社法および金融商品取引法（J-SOX法）で要求される財務報告の適正化への取り組みを開始しました。当初は6名のプロジェクト体制でしたが、2007年4月には、専任部署として内部統制推進部を設置。2007年2月の取締役会で承認された全体計画に基づき整備を進め、2008年3月内部統制の構築を完了しました。

また、情報開示担当役員を委員長とする情報開示委員会が、財務報告に係る開示資料の誤記や誤謬の有無について精査し、適正性の確保に努めています。

コーポレートガバナンス体制図 当社における会社の機関・内部統制等の関係（→は選任・委嘱、←は指示・報告・監査等を意味する）



[Web](#) Webサイトにより詳しい情報を掲載しています。

●コーポレートガバナンスに関する報告書 <http://www.riso.co.jp/>

コンプライアンスの徹底

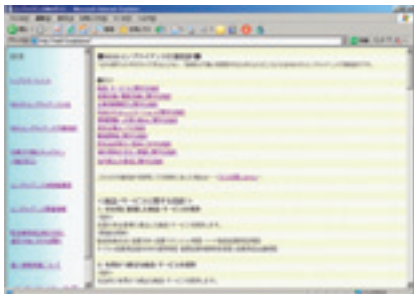
当社は、コンプライアンス（遵法）を企業経営の基本として重視しており、法令や社内規程の遵守とともに、社会倫理や道徳を尊重し、社会の一員であることを自覚した事業活動の推進に努めています。具体的には「遵法経営規程」**解説1**に基づき、取締役会でリスク・コンプライアンス担当取締役を選任し、その指揮下にリスク・コンプライアンス委員会を設置して、コンプライアンス活動を推進しています。

2008年4月には、世界中の理想科学グループ社員が共通の理解のもとコンプライアンス行動が取れるように「RISOコンプライアンス行動指針」**解説2**の表現、内容を改訂し、周知に努めました。

コンプライアンス教育・啓発

役員および全社員が、「トップステートメント」「RISOコンプライアンス行動指針」を理解し、実践できるように、「コンプライアンスハンドブック」を配布しています。また社内イントラネットに「コンプライアンス」のページを設け社内ですり起るコンプライアンスのモデルケースを取り上げ、その問題点について解説し社員が適切なコンプライアンス行動が取れるように努めています。

2007年11月には、Eラーニングを利用して全社員にコンプライアンス全般にわたる教育と自己点検を実施しました。点検結果は、コンプライアンスの一層の徹底を図るためのコンプライアンスプログラムの策定に反映しました。



社内イントラネット画面

リスクマネジメント

適正な事業運営を阻害するさまざまなリスクを認識し、それを統合的かつ合理的な方法で管理して行くことは、コンプライアンスの徹底と並び経営の重要課題の一つです。

当社では、会社法の定めに基づき、取締役会の決議により「損失の危険の管理に関する規程」を制定し、当社グループを取り巻く各種リスクを統合的に管理する体制の整備に努めています。

大型投資を含む重要な業務執行については、実行部門や関連部門が執行に伴うリスクを分析し、適切なリスク対策を検討した上で、経営会議や取締役会で審議され決定されます。

また、当社グループを取り巻くさまざまなリスクに対応するため、リスク・コンプライアンス委員会を設置しています。リスク・コンプライアンス委員会では、リスクを抽出し、それが発生した場合の影響度等を評価して当社グループに重大な影響を与えるリスクを特定しています。特定した重大リスクについては、個別にリスク管理プログラムを策定し実行することにより、リスクの低減・回避に努め、統合的なリスクマネジメントを推進しています。一方、当社の生産事業所では、事業所長をトップとした防災委員会を設置し、環境汚染防止や災害発生防止に取り組んでいます。防災委員会では防災に関わる事業所の年間活動計画などを定め、火災や地震を想定した総合防災訓練の実施や不安全箇所・不安全行動の摘出・改善、設備の維持管理、事故・緊急時の対応計画の立案と訓練実施など、リスクの低減に努めています。2007年度において、環境に関する事故・緊急事態は発生していません。

情報リスクへの対策

事業活動に重大な影響を及ぼすリスクの一つに、情報リスクがあります。当社グループが保有する機密情報や個人情報などが、破壊され、改竄され、または外部に漏洩することは、当社グループに大きな損失をもたらします。当社では、従来より情報管理プロジェクトチームを設置して、そのような情報リスクに対する対策を講じています。

解説1 遵法経営規程

コンプライアンス推進のための組織や指針などを定めたものです。

- ・社長が最高経営責任者として、コンプライアンスプログラムの実行と継続的改善、ならびにコンプライアンスの維持に努める事を「トップステートメント」として宣言する事。
- ・「RISOコンプライアンス行動指針」を役員、社員が遵守する事。
- ・コンプライアンスプログラムを実行し、継続的な改善を行うためのリスク・コンプライアンス担当取締役、委員会などの組織体制。
- ・行動計画、コンプライアンス教育、コンプライアンス内部監査、コンプライアンスアセスメントなどのコンプライアンスプログラム
- ・内部通報(コンプライアンスホットライン、ハラスメントホットライン)の仕組み

解説2 RISOコンプライアンス行動指針

社員が遵守すべき25の行動指針を定めています。また、行動指針に照らしてもその行動が正しいものか判断に迷う場合には、自らに対して以下の5つの問いかけを行うこととしています。

- ・「その行動」は、RISOの方針にあっていますか？
- ・「その行動」を他人がしたらあなたはどのように思いますか？
- ・「その行動」を家族や友達に知られて恥ずかしくありませんか？
- ・「その行動」が新聞にのったらどう映るでしょうか？
- ・「その行動」は正しくないといふ心で思っていないですか？